

第3期裾野市スポーツ推進計画

(令和8～12年度)

(素案)



令和8年3月

裾野市教育委員会

(白ページ)

はじめに

教育長のコメント挿入予定

令和8年3月

裾野市教育委員会

教育長 風間 忠純

＜目次＞

序章

1	計画見直しの背景・趣旨	1
2	計画の位置づけ	1
3	計画の期間	2

第1章 裾野市におけるスポーツの現状と課題 3

1	裾野市スポーツ推進計画（平成28年～令和2年度）の目標達成状況	3
2	生涯スポーツの推進の現状と課題	4
3	スポーツ関連施設の現状と課題	10
4	スポーツツーリズムの現状と課題	13

第2章 目標と課題項目の設定 16

1	基本構想	16
2	課題項目	16
3	計画目標	18
4	進行管理	19

第3章 施策の展開 21

1	生涯スポーツの推進	21
2	スポーツ関連施設の整備	28
3	スポーツ団体の育成と部活動の地域展開	30
4	スポーツツーリズムの促進	32

序章

1 計画見直しの背景・趣旨

裾野市では、これまで第1期スポーツ推進計画では「する」「観る」「支える」という三つの視点で、「体力づくりと健康な身体づくり」「スポーツ活動の推進」「スポーツツーリズムの促進」の三つの課題項目を設定し、市民のスポーツ推進に関する各施策を実施し、第2期スポーツ推進計画では「市民一人一人がスポーツに親しむことができる環境づくり」、「市民スポーツの振興と交流人口・関係人口の拡大」の2つの基本構想の下、「生涯スポーツの推進」、「スポーツ関連施設の整備・充実」、「スポーツツーリズムの推進」の三つの課題項目を通じて、市民が生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境づくりや、スポーツを通じた地域活性化に取り組んできました。

しかし、計画期間の終了とともに、社会情勢や市民ニーズの変化、国の「第3期スポーツ基本計画」や静岡県のスポーツ推進計画の改定など、スポーツを取り巻く環境が大きく変化しています。加えて、裾野市の「第5次総合計画」や「第3期教育振興基本計画」との整合性を図る必要も生じており、これらを踏まえた新たな方向性の検討が求められました。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、ライフスタイルや健康意識が大きく変化したこと、スポーツの在り方を見直す契機となりました。市民が安全かつ持続的にスポーツに取り組める環境の整備、部活動を含めた地域スポーツの指導者育成、そしてだれもがアクセスできるスポーツ環境の実現が、今後の裾野市における重要な課題となっています。

こうした背景のもと、第3期裾野市スポーツ推進計画では、第2期スポーツ推進計画での取り組みを継承しつつ、裾野市の地域特性を活かしながら、すべての市民がスポーツを通じて健康で豊かな生活を送ることができる社会の実現を目指し、施策の見直しと再構築を行いました。

2 計画の位置づけ

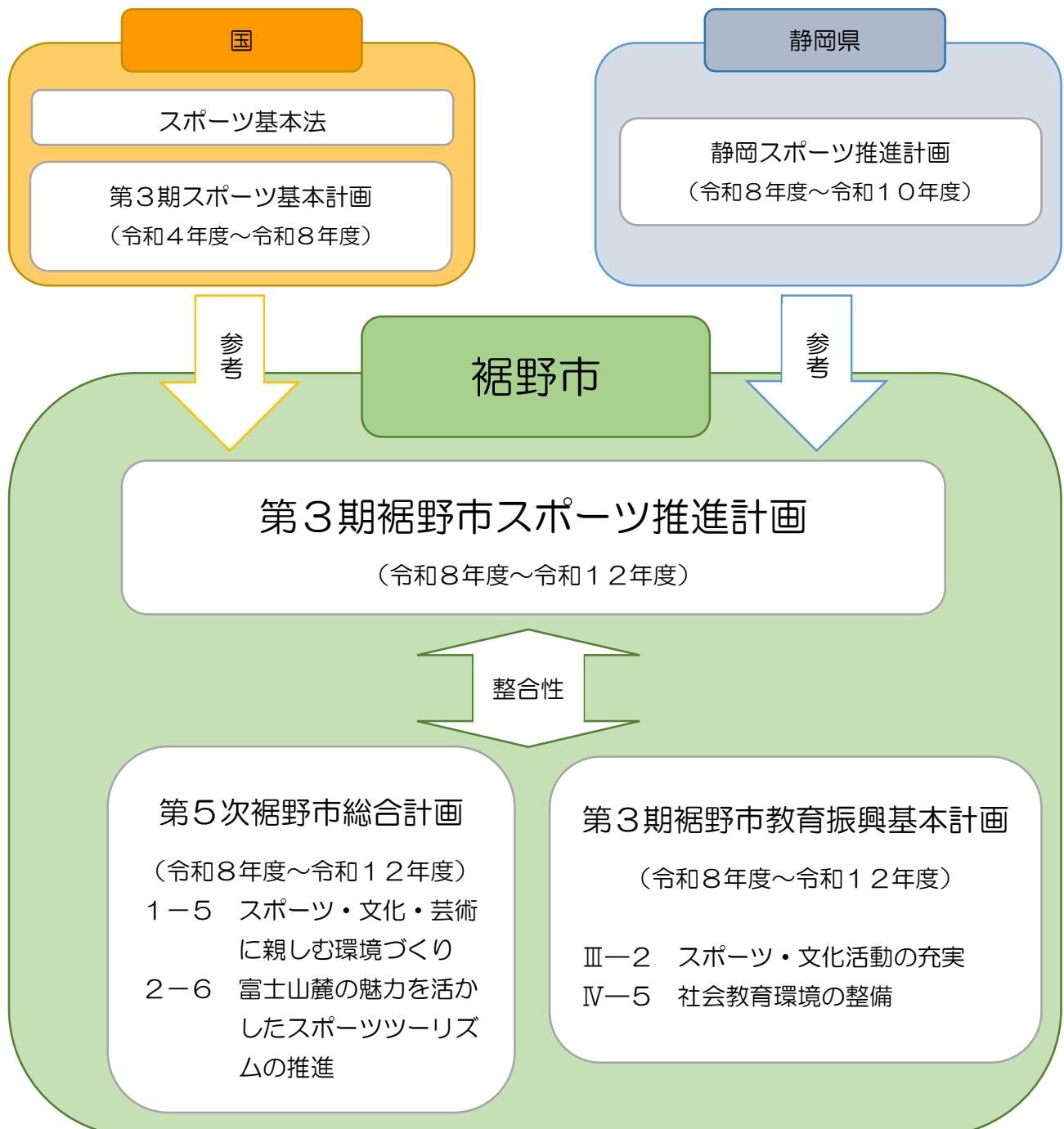
現在策定している「第5次裾野市総合計画」では、教育分野においては『スポーツ・文化・芸術に親しむ環境づくり』、産業分野においては『富士山麓の魅力を活かしたスポーツツーリズムの推進』を目標としています。同時に策定中の「第3期裾野市教育振興基本計画」においては、『スポーツ・文化活動の充実』、『社会教育環境の整備』を基本施策に掲げています。

これらの主旨に従って、スポーツ推進体制を整備するための目標と施策を指し示すものです。

3 計画の期間

本計画は、「第5次裾野市総合計画」、「第3期裾野市教育振興基本計画」に合わせ、令和8年度から令和12年度までの5年間の計画とします。

なお、本計画は教育環境の変化等に柔軟に対応するため、計画期間中でも見直しを図ることがあります。



裾野市スポーツ推進計画策定フロー図

第1章 堀野市におけるスポーツの現状と課題

1 堀野市スポーツ推進計画（令和3年～令和7年度）の目標達成状況

令和3年度から5年間を計画期間とした「第2期堀野市スポーツ推進計画」では、生涯スポーツの推進、スポーツ関連施設の整備・充実、スポーツツーリズムの推進を掲げました。これらの基本構想を達成するための3つの計画目標ごとに、これまでの取組を検証します。

（1）30分以上の運動を週1回以上行う市民の割合

ウォーキングなど手軽にできる生涯スポーツの啓発や、自宅でできる簡単なトレーニングの情報提供を行い、令和2年度以降はほぼ横ばいに推移しており、令和6年度は目標の65%を下回りました。

目標値	R2	R3	R4	R5	R6
65	53.3	52.4	55.0	53.6	56.5

（堀野市市民意識調査）

（2）市内の公共スポーツ施設の年間利用者数

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度から大幅に利用者数が減少したが、年齢や障がいの有無、性別など、様々なニーズに応じたスポーツ教室の開催や、学校体育施設開放事業により、徐々に増加し令和6年度は目標を下回ったものの40万人を超えるました。

目標値	R2	R3	R4	R5	R6
450,000	223,243	292,991	324,640	363,534	402,634

（市内公共スポーツ施設と学校体育施設の利用者計）

（3）スポーツイベント参加者数

コロナ禍からの回復に向けて、世界最大級の障害物レース「スバルタン」を誘致し、令和5年度に部分開催を、令和6年度から完全開催したことで、目標3,300人を達成しました。その他、アウトドアスポーツや陸上競技、自転車競技など、当市の立地特性を活かしたスポーツイベントを開催しました。

目標値	R2	R3	R4	R5	R6
3,300	—	787	1,173	2,342	3,774

2 生涯スポーツの推進の現状と課題

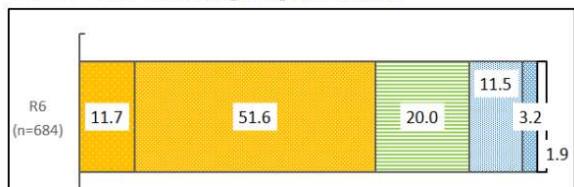
(1) 運動習慣の定着と拡大

令和6年度実施の「裾野市市民意識調査」（以下市民意識調査）によると、「身体的に健康な状態である」問い合わせに対し、回答者の63.3%が「非常にあてはまる」または「ある程度あてはまる」と回答しています。令和元年度の「大いに健康」、「まあまあ健康」の合計75.3%と比較すると大きく減少しています。一方で「あまり健康でない」が令和元年度では21.8%に対し、令和6年度では「あまりあてはまらない」及び「全くあてはまらない」の合計が14.7%と減少しています。スポーツや運動の頻度については、「週に1回以上スポーツや運動をしている」が令和元年度の49.7%に対し、令和6年度は56.5%と増加しています。また「ほとんどスポーツや運動をしていない」については令和元年度の30.6%に対し、令和6年度は31.1%とやや増加しています。令和6年度はスポーツの運動頻度については改善が見られ、健康ではないと感じる人の割合は減少していますが、健康な状態であると感じる人の割合についても減少しており、今後さらなる運動習慣の定着を図っていくことが求められます。

令和6年度市民意識調査

問17 身体的に健康な状態である

■令和6年度 調査結果【全体】、過年度比較

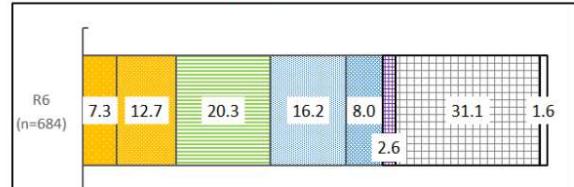


■令和6年度 調査結果【全体】、過年度比較
R6 (n=684)

- 非常にあてはまる
- ある程度あてはまる
- どちらともいえない
- あまりあてはまらない
- 全くあてはまらない
- 無回答

問19 この1年間のスポーツや運動の実施の頻度について

■令和6年度 調査結果【全体】、過年度比較



■令和6年度 調査結果【全体】、過年度比較
R6 (n=684)

- 週に6～7回
- 週に4～5回
- 週に2～3回
- 週に1回
- 週に1回未満で月に1回以上
- 月に1回未満で年に1回以上
- ほとんどスポーツや運動をしていない
- 無回答

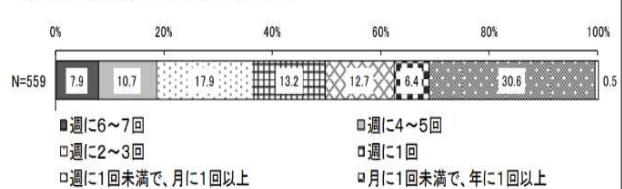
令和元年度市民意識調査

問7 ご自分の健康についてどのように感じていますか。(単一回答)



■大いに健康 ■まあまあ健康 ■あまり健康ではない ■わからない ■無回答

問8 この1年間でスポーツや運動(1回あたり30分程度以上、散歩・ストレッチ等の軽運動を含む)をどれくらいの頻度で行いましたか。(単一回答)



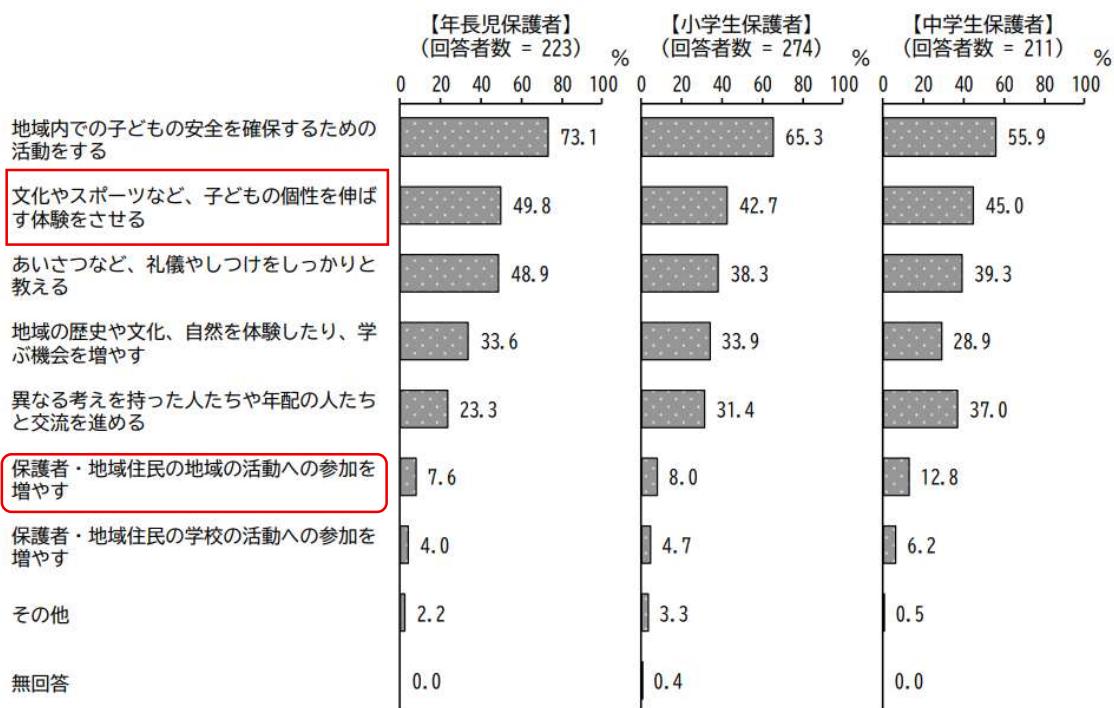
■週に6～7回
■週に4～5回
□週に2～3回
□週に1回
■週に1回未満で月に1回以上
■月に1回未満で年に1回以上
■ほとんどスポーツや運動をしていない
□無回答

(2) 子どもたちの体力の向上

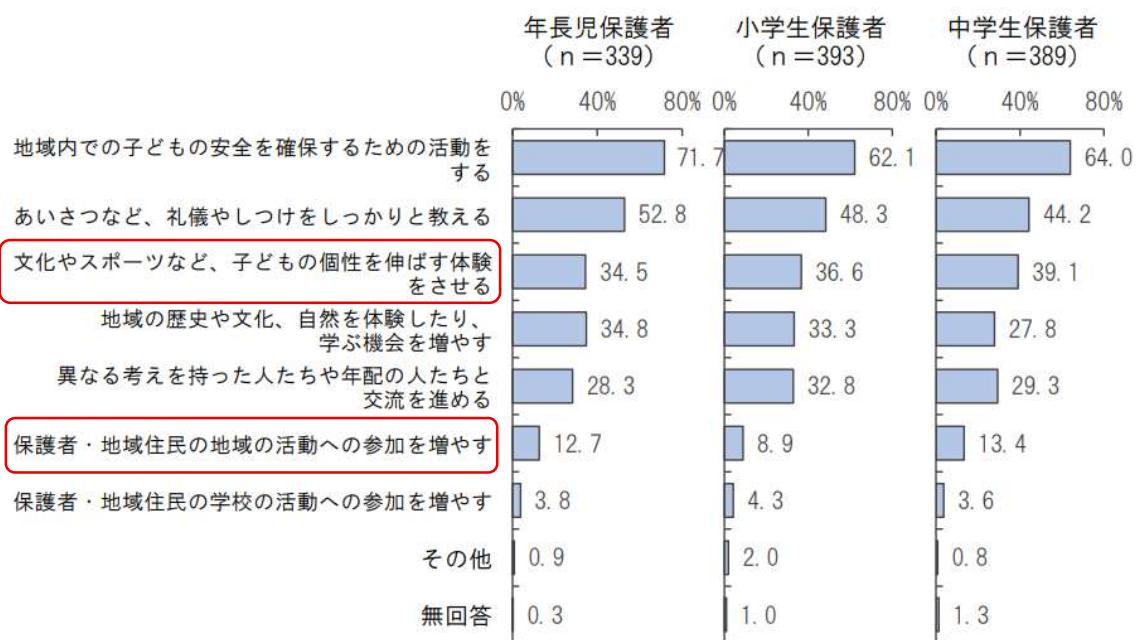
「裾野市教育に関するアンケート調査」(以下アンケート調査)において、「子どもを育てるうえで、地域で力を入れるべきことはどんなんことだと思いますか」の間に、「文化やスポーツなど、子どもの個性を伸ばす体験をさせる」の項目が、令和元年度のアンケート調査では、年長児保護者の34.5%、小学生保護者の36.6%、中学生保護者の39.1%の回答率だったのが、令和6年度では年長児保護者の49.8%、小学生保護者の42.7%、中学生保護者の45.0%と、「あいさつなど、礼儀やしつけをしっかりと教える」を上回り、全ての保護者の回答率が大幅に高くなりました。また、「保護者・地域住民の地域の活動への参加を増やす」について令和6年度と令和元年度を比較すると、全ての保護者の回答率が減少しており、特に年長児保護者においては5.1%と大幅に減少しています。これらの結果から、地域活動への機運醸成や子どもが成長する過程におけるスポーツの重要性が求められており、子どものときからスポーツに親しむ環境、そして、生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境を整備する必要があります。

問. 子どもを育てるうえで、地域で力を入れるべきことはどんなんことだと思いますか。(3つまで○)

令和6年度裾野市教育に関するアンケート



令和元年度裾野市教育に関するアンケート



(3) 世代や障がいの程度等に応じたスポーツ機会の創出、充実

市民のだれもが生涯にわたってスポーツに親しむ機会をふやすために、保健・福祉分野との連携により、高齢期に身体を動かす習慣の普及や、障がい者スポーツの環境づくりや指導者の育成を推進する必要があります。

令和元年度アンケート調査において、市が特に力を入れて行う必要があるスポーツ活動について、「年齢層にあったスポーツの開発普及」が36.6%、「指導者の確保・育成」が19.1%の回答率でしたが、令和6年度アンケートでもそれぞれ32.1%、19.4%と依然高い回答率となっており、年代や性別等に関わらず、スポーツが行える機会の提供や指導者の確保が求められています。

問. 補野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業は何ですか。(スポーツ活動)

令和6年度補野市教育に関するアンケート

③スポーツ活動について（3つまで○）

回答者数 = 324

市民体育館、運動公園など、スポーツ活動施設の整備

年齢層にあったスポーツの開発普及

指導者の確保・養成

学校体育施設の開放・整備

高齢者や障がい者のスポーツ機会の創出、充実

地域のスポーツクラブやスポーツ少年団等の支援

各種スポーツ行事・大会・教室の開催

全国大会など、トップレベルの競技にふれる機会の増加

スポーツ選手の育成、支援

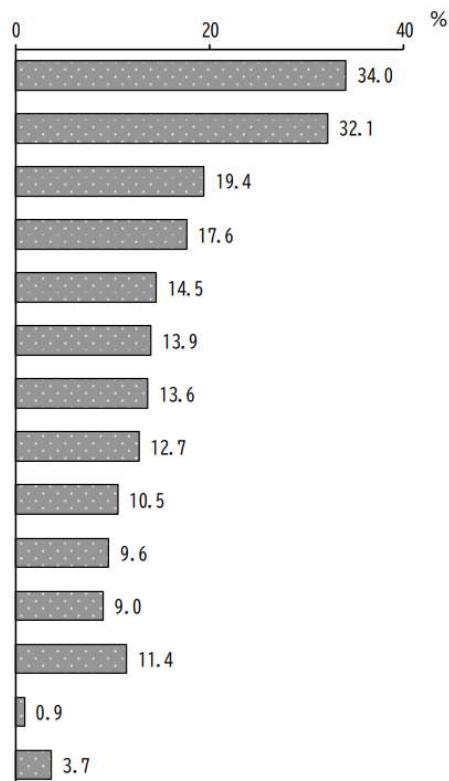
スポーツに関する情報発信

スポーツイベントやスポーツ合宿等の誘致

力を入れて行う必要があると思う施策・事業は特にない

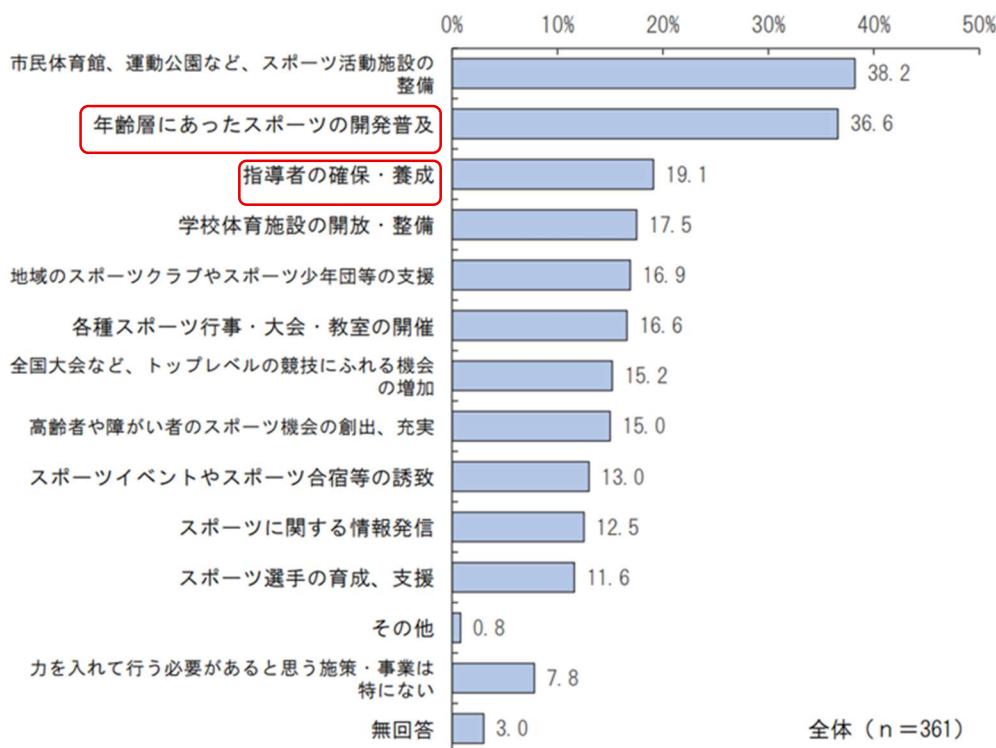
その他

無回答



令和元年度裾野市教育に関するアンケート

スポーツ活動について（複数回答：3つまで）



(4) 地域スポーツ環境の整備

市民が主体的に参画する地域のスポーツ環境を整備するために、スポーツ推進委員やスポーツ関係団体により、競技スポーツからレクリエーションスポーツまで、幅広いスポーツ大会や教室等が開催されています。

現在、NPO 法人裾野市スポーツ協会加盟団体が開催する大会や教室、各地区の体育委員会が開催するスポーツ推進事業や、全国大会等に出場する団体や選手に対する奨励金、広報等による市内外へのPR活動等、各競技団体や各種団体が行う事業活動に対し支援を行っていますが、地元企業等と連携し、さらなるスポーツの振興を図る必要があります。

また、だれもが体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、スポーツに親しむことができるために、地域スポーツを支える指導者の確保・育成が課題となっています。

各種補助金

内容	対象
<u>スポーツ振興事業補助金</u> 市民スポーツを推進するため、生涯スポーツ事業等を実施する団体に交付	<ul style="list-style-type: none">・NPO法人裾野市スポーツ協会加盟団体が主催するスポーツ大会、スポーツ教室の開催・各地区で実施するスポーツ推進事業・他
<u>スポーツ選手大会出場奨励金</u> 全国大会以上の各種競技大会に出場する選手に対し、奨励金を交付	<ul style="list-style-type: none">・オリンピック・パラリンピック・世界大会・アジア大会等・全国大会
<u>地区小運動場設置補助金</u> 地区民のスポーツ推進の場として、区が小運動場を設置する場合に交付	<ul style="list-style-type: none">・借地料・整備費
<u>スポーツ指導者養成補助金</u> スポーツの基礎的な知識、技術等を指導する公認資格を有する指導者を養成し、市民スポーツの推進を図ろうとする団体へ交付	<ul style="list-style-type: none">・スポーツ指導員講習受講に要する経費・他

3 スポーツ関連施設の現状と課題

(1) 各スポーツ施設の整備

市内の公共スポーツ施設は、運動公園や、市民体育館、総合グランド等があり、長年、市民スポーツの拠点として親しまれています。しかし、年数の経過により建物や設備は老朽化が進むため、施設の利用実態等を分析し、施設数の最適化を図るとともに計画的な改修等が必要です。また障がい者スポーツの振興を視野に入れたユニバーサルデザインの導入等が求められます。

アンケート調査では、裾野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業の中で「市民体育館、運動公園など、スポーツ活動施設の整備」について、令和元年度では38.0%、令和6年度においても34.0%と引き続き最上位の回答率となっている。市民が快適にスポーツを楽しむことができるよう既存施設の効率的な利用を推進し、より利用しやすい環境整備を図ることが求められています。

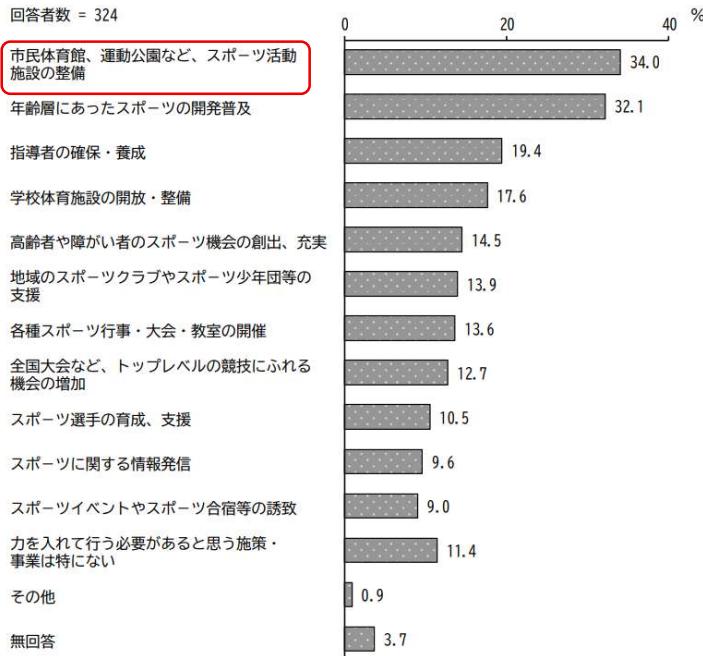
公共スポーツ施設一覧

施設名称	内容
裾野市民体育館	<ul style="list-style-type: none">・アリーナ（バスケットボールコート、バレーボールコート、バドミントンコート）・柔道場・剣道場・トレーニング室・卓球場・テニス場・多目的ルーム・小会議室・健康増進ルーム
裾野市運動公園	<ul style="list-style-type: none">・陸上競技場・野球場・テニス場・多目的広場・芝生の丘・やすらぎの広場
総合グランド	<ul style="list-style-type: none">・Aグランド（野球場）・Bグランド（ソフトボール場）・Cグランド（ソフトボール場）・多目的競技場
須山テニス・フットサル場	<ul style="list-style-type: none">・テニス場・フットサル場
深良グランド	<ul style="list-style-type: none">・多目的グランド

問. 補野市が特に力を入れて行う必要があると思う教育施策や教育事業は何ですか。 (スポーツ活動)

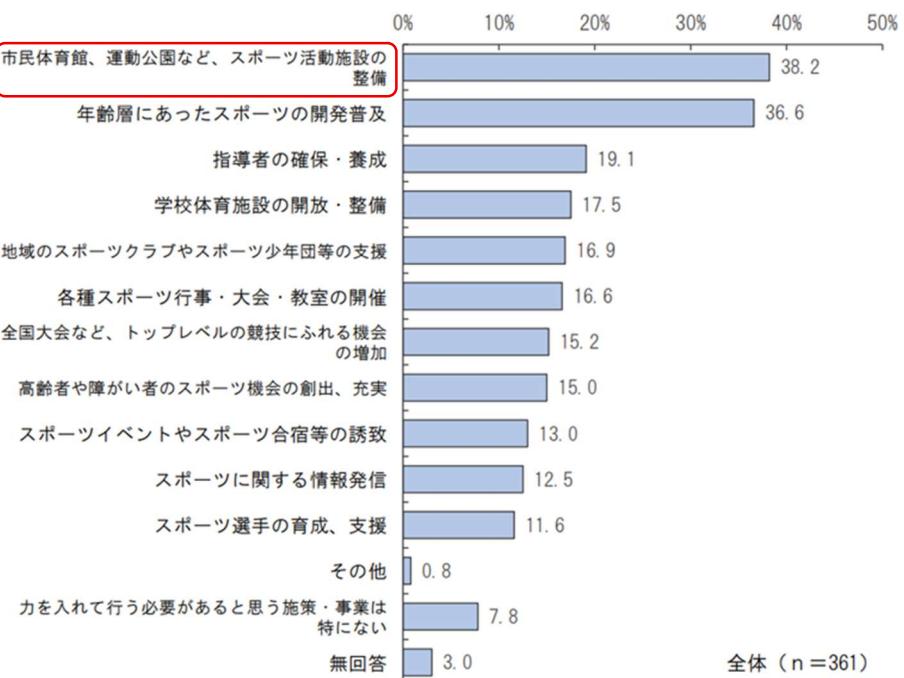
令和6年度補野市教育に関するアンケート

③スポーツ活動について (3つまで○)



令和元年度補野市教育に関するアンケート

スポーツ活動について (複数回答: 3つまで)



（2）学校体育施設開放事業の充実

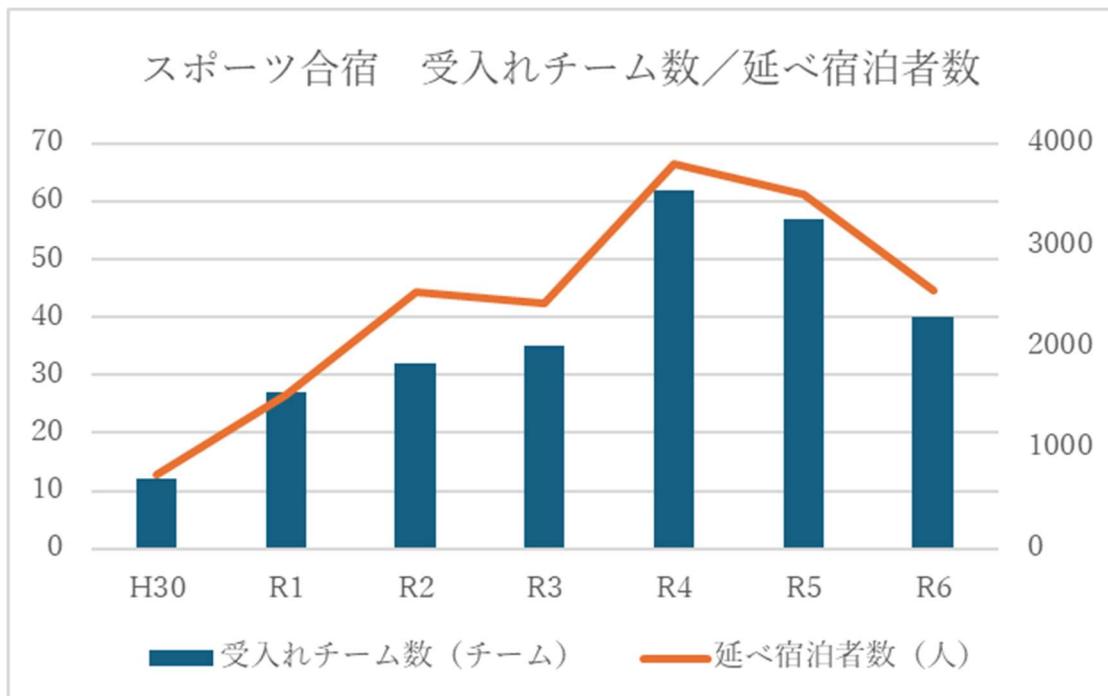
市内学校施設で行っている学校体育施設開放事業は、市民の自発的なスポーツ活動の拠点として、また、住民によるまちづくり活動の場として多くの利用があります。学校再編に伴う施設数の最適化を図るとともに、利用者による自主管理を推進し、限られた開放時間・施設容量の中で、増大する需要を調整し、だれもが利用しやすい運営体制の整備に取り組む必要があります。

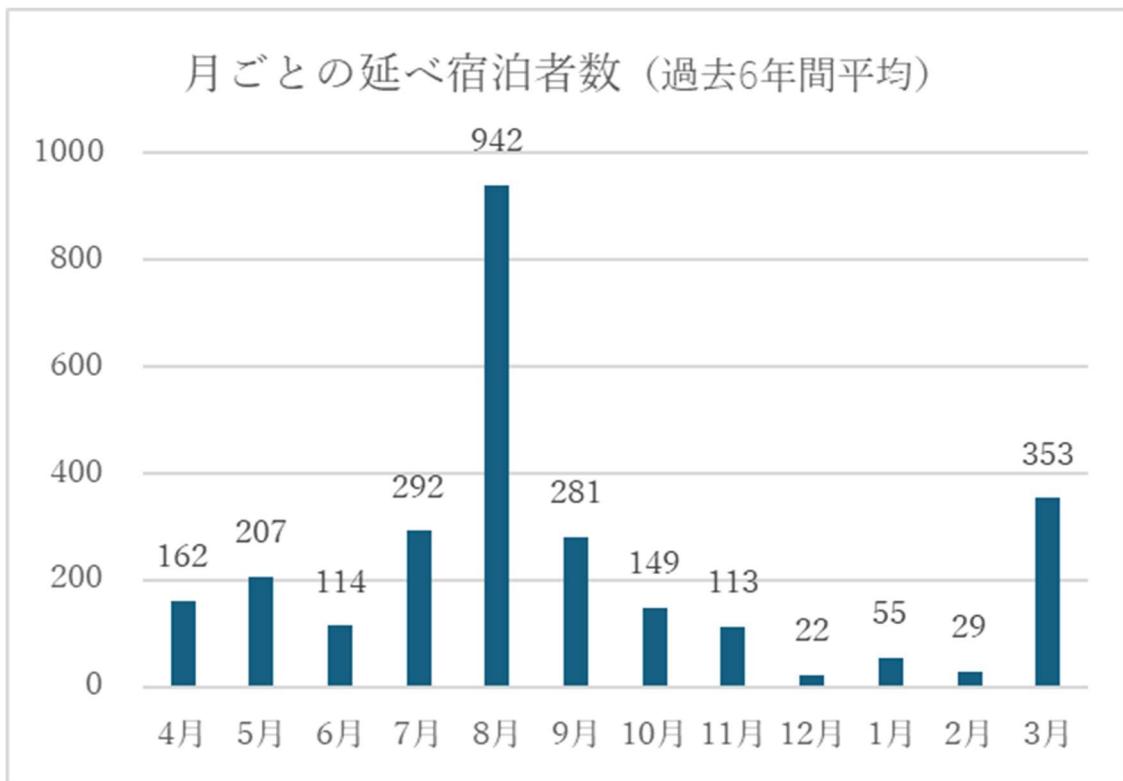
4 スポーツツーリズムの現状と課題

(1) スポーツ合宿等の誘致

本市では平成30年3月に官民連携の地域スポーツコミッショ「裾野市スポーツツーリズム推進協議会（S-SPO）」を設立し、富士山麓の立地特性を生かしたスポーツ合宿誘致及びスポーツイベントの開催に取り組んでいます。また、令和6年1月には地域おこし協力隊として専門人材を委嘱し、体制強化を図りました。令和6年度のスポーツ合宿の受入れ数は40チーム／延べ宿泊者数2,551人となり堅調に推移するとともに、スポーツイベントの参加者数も3,774人となり、目標の3,300人を越えました。

一方で、合宿受入れは繁忙期と閑散期ではつきりと差があり、中でも8月は受入れが集中し合宿需要の取りこぼしが起きているという課題があり、受入れ時期の平準化及び閑散期の誘客が求められています。





（2）東京2020オリンピック自転車競技ロードレースレガシーの創出

本東京2020大会を契機に、様々な有形／無形のオリンピック・レガシーが生まれました。これらを適切に保全し継承するとともに、本市及び富士山麓エリアの地域資源として活用し、サイクリストの誘客を図ります。

観るスポーツ

プロスポーツの観戦

するスポーツ

スポーツイベントの開催

支えるスポーツ

スポーツ大会や合宿の
誘致・支援



ツーリズム

裾野市が有する魅力的なスポーツ資源・観光資源



交流人口の拡大

地域経済の
波及効果

市の知名度向上

市民のスポーツ
活動の活性化

裾野市が目指すスポーツツーリズム

第2章 目標と課題項目の設定

1 基本構想

令和8年3月策定の「第3期裾野市教育振興基本計画」でうたわれる基本理念「共に学び、つながり合い、多様な個性を活かしながら、未来を拓く人づくり」を実現するため、市民ひとりひとりがスポーツに親しむことができる環境づくりを目指します。

さらに、地域指導者の育成やスポーツツーリズムを促進し、多様性に満ちた市民スポーツの振興、スポーツを通じて裾野市を訪れる人たちとの交流拡大を図ります。

2 課題項目

上記の基本構想を達成するため、4つの課題項目を定めます。また、各課題項目達成のため、それぞれ小項目を設定します。

（1）生涯スポーツの推進

年齢性別や障がいの有無、支援の程度にかかわらず、だれもがスポーツを楽しむことができるよう、スポーツ教室の開催等を通じ、市民のスポーツ参加意欲の高揚を図り、市民の自発的なスポーツ活動の育成や関係諸団体への支援を行います。

- ・運動習慣の定着と拡大
- ・子どもたちの体力向上
- ・世代や障がいの程度に応じたスポーツ機会の創出、充実
- ・地域スポーツ環境の整備

（2）スポーツ関連施設等の基盤整備・充実

市民が安全で快適にスポーツを楽しめる屋外スポーツ基盤の整備や老朽化の進む既存スポーツ施設の計画的な整備・改修・長寿命化を実施し、施設利用者の安全を確保します。また、各スポーツ施設の利用実態を分析し、施設数の最適化を図るとともに、指定管理者制度により民間のノウハウを活かし、施設の利便性向上を図ります。

- ・市内公共スポーツ施設の整備
- ・学校体育施設開放事業の充実
- ・屋外スポーツ基盤の整備

(3) スポーツ団体の育成と部活動の地域展開

部活動の地域展開の実現や市民スポーツの振興を図るため、JSP0 公認スポーツ指導者資格の取得や、「スタートコーチ（ジュニア・ユース）」および「ジュニアリーダースクール」の受講を支援します。これらの取組を通じて、市民スポーツや部活動における指導者の育成を進めるとともに、スポーツ指導者バンクへの登録者数の増加を目指します。また、地域スポーツ団体・スポーツ少年団を活用し、スポーツ団体の育成や、地域指導者の育成・確保を目指します。

- ・地域指導者の育成・確保
- ・地域スポーツ団体の育成
- ・部活動の地域展開の円滑な移行及び運営の安定化

(4) スポーツツーリズムの推進

これまでに築かれた裾野市スポーツツーリズム推進協議会（S-SPO）内外の連携体制や諸チームとの関係性を活かし、事業継続します。

合宿受入れ時期の平準化及び閑散期の誘客対策を重点課題として取り組むことで、年間を通した受入れの拡大を目指します。また、東京2020オリンピック自転車競技ロードレースのレガシーを継承し活用することで、交流人口の拡大を目指します。

- ・スポーツ合宿の誘致やスポーツイベントの開催
- ・東京2020オリンピック自転車競技ロードレースレガシーの継承

3 計画目標

令和12年度までに以下目標の達成を目指します。また、この目標を達成するために、第3章の各項目において具体目標を設定します。

（1）週1回以上の運動習慣のある市民の割合 70%

（令和6年度 56.5%）

競技スポーツや激しい有酸素運動に限らず、簡単なストレッチやウォーキングでも、定期的に続けることにより体力向上と健康増進につながります。子どもから高齢者までスポーツや運動に親しむ機会を充実し、手軽な運動方法や運動ができる場所の情報を発信することで、市民の運動習慣の定着、拡大を目指します。

（2）市内の公共スポーツ施設の年間利用者数 47万人

（令和6年度 402,634人）

市内の公共スポーツ施設を積極的に活用し、スポーツ教室やイベント、人材育成を通じて市民のスポーツ活動の支援を行い、すべての市民が、世代や障がいの有無にかかわらず、スポーツに親しめる環境の創出を目指します。

（3）スポーツ指導者バンクの登録者数 47人

（令和6年度 4人）

部活動の地域展開の実現や市民スポーツの振興を図るため、JSP0公認スポーツ指導者資格の取得や、「スタートコーチ（ジュニア・ユース）」および「ジュニアリーダースクール」の受講を支援します。これらの取組を通じて、市民スポーツや部活動における指導者の育成を進めるとともに、スポーツ指導者バンクへの登録者数の増加を目指します。

（4）スポーツ合宿受入れチーム数 60チーム

（令和6年度 40チーム）

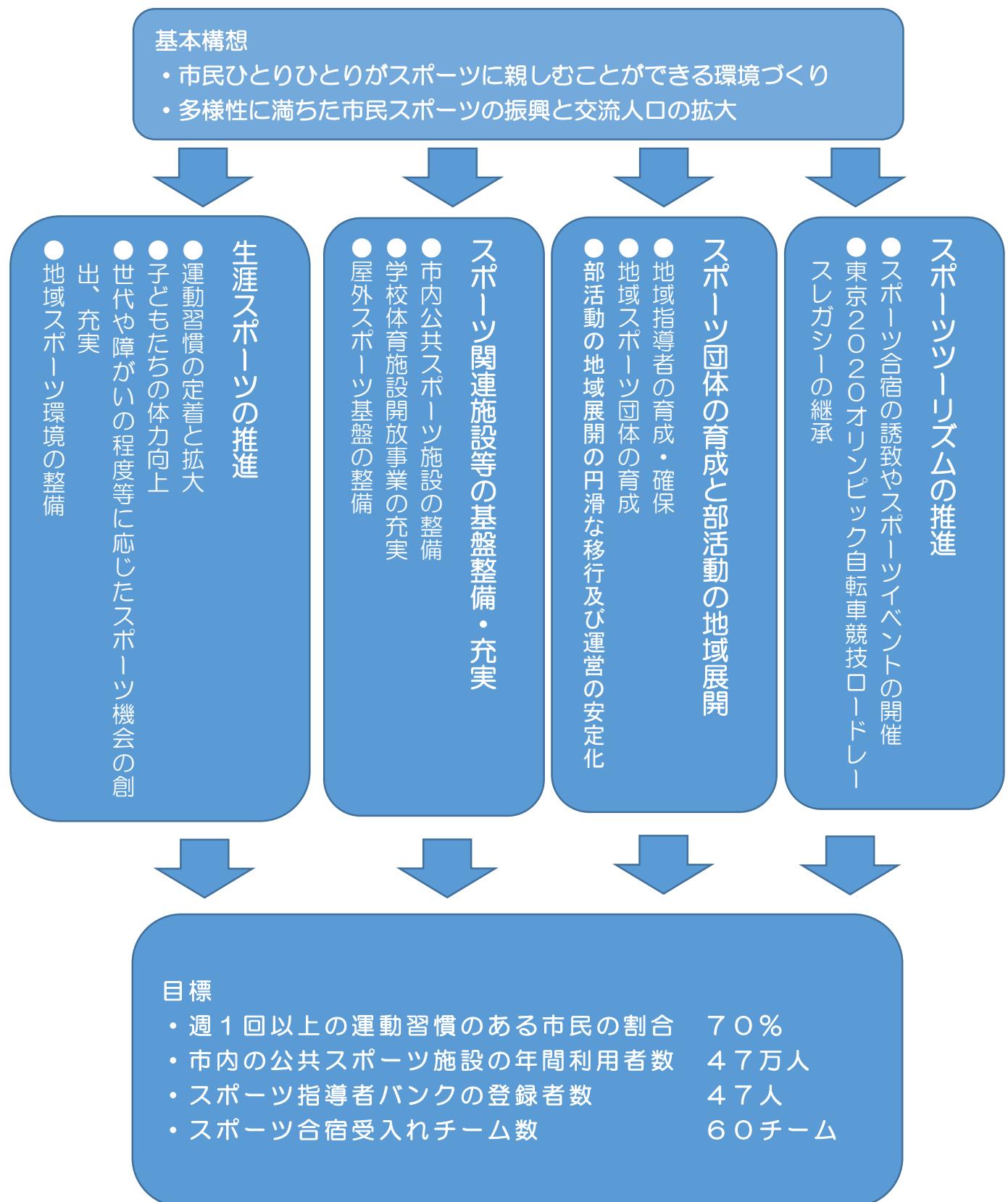
本市の地域資源を活かし、裾野市スポーツツーリズム推進協議会（S-SPO）をはじめとする官民協働の取組みを通じて、陸上長距離走などのスポーツ合宿の誘致やスポーツイベント等の開催に取り組みます。

4 進行管理

目標の「30分以上の運動を週1回以上行う市民の割合」については毎年度行われる市民意識調査にて、「市内の公共スポーツ施設の年間利用者数」については年度ごとの各施設の延べ利用者数の合計にて、スポーツ指導者バンクの登録者数は年度ごとの登録者数の集計にて、また「スポーツ合宿受入れチーム数」については、裾野市スポーツツーリズム推進協議会（S-SPO）による集計にて目標達成度を判断します。

本計画の推進にあたっては、積極的に情報発信に努め、行政だけでなく、地域住民、スポーツ団体、企業、学校など多様な主体との協働や、近隣自治体・関係機関と広域的な連携を図り、より効果的なスポーツ環境の整備を目指します。また、スポーツ推進審議会による進捗状況の点検・評価を行い、その後の施策展開に反映させるよう努めます。

第3期裾野市スポーツ推進計画目標フロー図



第3章 施策の展開

1 生涯スポーツの推進

(1) 運動習慣の定着と拡大

① 年齢・体力に関係なく楽しめるレクリエーションスポーツを活用し、市民大会や体験会を通じて運動習慣の定着を図ります。【生涯学習課】

各地区で開催するスポーツ教室を、レクリエーションスポーツ等の幅広い年齢層の市民が参加できる内容にし、運動習慣の定着と拡大を目指します。

② 手軽にできるウォーキングを習慣化するために市内ウォーキングコースやウォーキング事業の周知を図ります。【健康推進課】

(関連計画：すその健康増進プラン)

ひとりでも気軽に楽しめるウォーキングを習慣化するために、市公式ウェブサイトや広報紙に市内ウォーキングコースや運動教室について情報を掲載し、市民の運動への取り組みを支援します。

●具体目標

- ・スポーツ推進員と協力し、5地区のスポーツ教室を各地区年間20回以上開催することを目指します。
(例　スポーツ教室西会場、東地区エンジョイスポーツ教室等)
- ・市ウェブページ等に情報紹介ページを設け、年1回以上更新します。
(例　寄り道ウォーキング)

(2) 子どもたちの体力向上

① スポーツ少年団等の活動を支援し、子どもが自分のレベル・目標に合わせた運動やトレーニングが行える場の充実を目指します。【生涯学習課】

技術の向上を目的としたスポーツ少年団やクラブチーム、楽しみながら体を動かし、スポーツに取り組むきっかけを提供するスポーツ教室等の活動を支援し、子どもが自身のレベル・目標に合わせて活動することができる場の充実を目指します。また、子ども向けのさまざまなトレーニング手法や先進的事例の情報収集に努め、研究するなどし、子どもたちの健康増進に取り組み、同時に健康な心を培い、頑張る力、持続する力を養います。

② 幼児期のスポーツ体験機会の充実を目指します。【生涯学習課】

幼児期の体を動かした遊びの経験は、将来、スポーツを継続的に行うための大切な要素となります。子どもたちが運動習慣を身につけるために、スポーツ団体や各種団体、民間事業者と連携し、幼児期から必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力を培うことができるよう、運動遊び等のスポーツ体験機会の充実を目指します。

③ 子どもたちがトップレベルのプレーに親しむ機会の創出に努めます。【生涯学習課】

プロアスリートのスキルを目の前で見ることや、話を聞くこと等、「ほんもの」と触れ合うことで子どもたちのスポーツに対する意欲と競技力の向上に大きく寄与します。子どもたちがスポーツに対する好奇心を高め、将来への夢や希望を持って成長できるよう、トップレベルのプレーを間近に体験することができる機会を創出します。

●具体目標

- ・子どもがスポーツと触れ合う機会や場を醸成するために、地域スポーツの基礎になるスポーツ少年団の団員数を増やすことを目指します。
- ・子どもの基礎的運動能力の向上を目指すため、成長段階に応じた教室を企画し、定期的な開催を目指します。
(例 幼稚園・保育園の運動教室)
- ・子どもたちがアスリートや著名指導者と触れ合うイベントを、年間1回以上開催することを目指します。
(例 プロ選手によるサッカー教室)

(3) 世代や、障がいの程度等に応じたスポーツ機会の創出、充実

① 幅広いニーズに対応するスポーツ教室を実施し、さまざまな年齢層の市民がスポーツを通して交流できる場の創出を目指します。【生涯学習課】

現在、スポーツの場においてもさまざまな要望やニーズが生まれています。スポーツ教室に関しては、内容、実施日時、周知方法等を工夫した多彩なプログラムを提供するとともに、安全・安心を基盤としたサービスの向上に努め、幅広い年齢層の市民がスポーツを通じて交流できる場を創出し、生涯スポーツの推進を目指します。

② 子どもから高齢者まで、親子や次の世代への繋がりを促進するスポーツ機会の創出を目指します。【生涯学習課】

世代間の交流を促すことを目的とし、子どもから高齢者までが参加できる地域のスポーツイベントを定期的に開催し、スポーツを通じて地域の活性化を目指します。

③ スポーツを行う習慣が少ないビジネスパーソンや子育て世代も自然に体を動かせる機会の創出に努めます。【生涯学習課】

仕事や家事、育児が忙しくなるとスポーツから離れてしまう状況が見られます。運動不足になりがちな働き盛りの世代や子育て世代が、仕事や家事、育児によりスポーツをする習慣を絶たれることのないよう、多種多様なニーズに合わせたスポーツ機会の創出を目指します。

④ 65歳までを対象とした健康づくり教室等を開催します。【健康推進課】

(関連計画：すその健康増進プラン)

若いころから運動を行うことは、高齢になった際にも健康な体を維持するために非常に重要です。指定管理者と連携し、65歳までを対象としたウォーキング教室や初心者のための体操教室等の健康づくり教室を開催し、将来の運動機能低下の予防を図ります。

⑤ 介護予防サロンや高齢者向けの介護予防教室などを開催し、高齢者の運動機能の維持向上に努めます。【介護保険課】

(関連計画：裾野市介護保険事業計画)

加齢からくる運動機能低下や、それらにより引き起こされる転倒・骨折や閉じこもりからくる更なる機能低下を起こさないようにするために、介護予防サロンや運動教室等を開設し、高齢者の運動機能の維持向上に努めます。

⑥ 障がい者が安全に運動できる場所や機会を確保し、障がいの程度等に合わせたスポーツ指導が行える人材の確保・育成に努めます。【総合福祉課】

(関連計画：すそのふれいあいプラン（第5次裾野市障がい者計画、第7期裾野市障がい福祉計画、第3期裾野市障がい児福祉計画）)

障がい者スポーツを推進するため、障がい者団体等と協力し、障がい者が安全にスポーツに取り組める運動環境の整備を目指します。

また、障がいの程度等に合わせた適切な指導を行える指導者の確保・育成に努めます。

⑦ 障がい者と健常者のスポーツを通じての交流を支援します。【総合福祉課】

(関連計画：すそのふれいあいプラン（第5次裾野市障がい者計画、第7期裾野市障がい福祉計画、第3期裾野市障がい児福祉計画）)

障がい者と健常者が共に手を取り合い、協力して社会を作り上げていくことは、今後取り組むべき重要な課題のひとつとなっています。地域や関係団体と協力し、スポーツを通しての交流をさらに支援できるよう努めます。

⑧ 障がいの有無、年齢、性別、文化的背景に関係なく、だれもが参加できるインクルーシブスポーツの推進を図ります。

スポーツ施設でのアーバンスポーツの実施や障がい者向け軽スポーツ教室の開催、パラスポーツ指導員巡回指導の受け入れ等、県と連携し、インクルーシブスポーツの地域展開を図ります。

●具体目標

- ・企業等と連携し、年齢や体力に関係なく、いつでも、どこでも楽しむことができ、だれとでも気軽に取り組むことができるスポーツ・レクリエーション活動を行える教室の講座数を維持することを目指します。
- ・世代間で交流が出来る地域イベントの開催を行います。
(例 モルック教室)
- ・ビジネスパーソンが休憩時間や終業後に気軽に取り組むことができるスポーツの情報を提供します。また、親子で参加できる教室の開催や、託児環境の整備など、子育て世代もスポーツをしやすい環境整備に努めます。
- ・65歳までを対象とした講座・教室の年間延べ参加者3,500人を目指します。(令和6年度3,489人)
- ・65歳以上を対象とした介護予防サロン、教室等における機能維持向上のための講座開催を年間120回実施するよう目指します。(令和6年度 112

回)

- ・障がい者を対象とし、体力の維持増進、社会参加、相互交流、余暇等の機会を提供するため、月1回障がい者スポーツ教室を開催します。
- ・教室の運営を事業委託し、障がい者スポーツ指導者の配置を確保します。
- ・教室参加者を増やすため、広く周知を図ります。
- ・静岡県障害者スポーツ大会や身体障がい者野球大会ドリームカップへの出場の推進・周知を行い、スポーツの力でつくる共生社会を目指します。また、令和2年12月2日に裾野市は（一社）日本パラサイクリング連盟と、「障がい者スポーツ振興によるまちづくりに関する包括連携協定」を締結し、障がい者スポーツ人口の拡大や、障がいへの理解促進に繋げます。
- ・スポーツ施設でのパラスポーツ指導員巡回指導の年1回以上の受け入れを目指します。

（4）地域スポーツ環境の整備

- ① スポーツを通じた仲間づくりを目的にスポーツ教室やイベントを開催し、市民が楽しみながらスポーツを行い、社会参加できるよう支援します。【生涯学習課】**

スポーツをともに行う仲間をつくることは、スポーツをより楽しみながら行えるだけではなく、社会参加や地域コミュニティの形成にもつながります。スポーツの仲間づくりを支援することで、スポーツの輪、地域の輪が広がるよう努めます。

- ② 地域交流の促進および地域の活性化を目的に、市民が主体的に行うスポーツ活動の創出を支援します。【生涯学習課】**

子どもから高齢者までが一緒に楽しめるスポーツの定期的開催を目指します。また、市民団体が企画するスポーツ大会や交流イベントに対して、行政が後援・広報支援・物品貸出などを行います。

- ③ 地域で活躍するリーダー育成を目的として、スポーツ推進委員の資質向上を図ります。【生涯学習課】**

スポーツ推進委員は、スポーツを推進する事業の実施における連絡や調整、地域住民に対する実技の指導や助言を行い、スポーツ施策を活発化させる役割を担っています。地域におけるスポーツ活動の充実を図るため、地域住民のニーズを

踏まえたスポーツのコーディネーターという役割に対応できるよう、スポーツ推進委員の資質向上を図ります。

④ スポーツ選手のモチベーションアップや技術向上を目的とし、各競技のトップアスリートや現役引退選手を招聘し、講演会や実技講習会を行う機会を創出します。【生涯学習課】

競技力を向上させ、スポーツ選手を育成するためには、競技技術だけではなく、メンタルトレーニングやモチベーションアップの方法も合わせて指導していくことが求められます。

選手のモチベーションアップや技術の向上を目的とし、パートナーシップ協定を締結している企業等と連携し、各競技のトップアスリートや、現役を引退し現在はセカンドキャリアを歩んでいるアスリートを招聘し、講演会や実技講習会、交流会等を開催することで「ほんもの」と触れ合う場を創出します。

⑤ スポーツ観戦を通じて、地域の誇りや一体感を育み、スポーツ文化の醸成と地域活性化を促進します。【生涯学習課】

パートナーシップ協定を締結している企業等と連携し、観戦機会の拡充、広報紙などによる情報発信の強化、選手とのふれあいイベントの開催などを通じて、地域の誇りや一体感を育む場づくりを促進します。

⑥ 頑張る市内のスポーツ選手の活動を応援し、トップアスリートの育成を目指します。【生涯学習課】

競技力を向上させ、スポーツ選手を育成するために、国際大会や全国大会等に出場する団体や選手に対し奨励金の交付や、横断幕の掲示等、大会参加や競技に取り組む意欲の醸成を図ります。。

⑦ ICT を活用したスポーツ機会の創出を目指します。

デジタル交流スペースとしてeスポーツやVRスポーツ等を体験できるコーナーを公共施設に設置し、「スポーツをする」だけでなく、「観る」、「つながる」場としての活用を目指します。

●具体目標

- ・スポーツ推進員と協力し、5地区のスポーツ教室を各地区年間20回以上開催することを目指します。
(例 スポーツ教室西会場、東地区エンジョイスポーツ教室等)
- ・市民団体が企画するスポーツ大会や交流イベントの年1回以上の開催を目指します。
- ・スポーツ推進委員の資質向上を図るための講習会を定期的に開催します。また、国や県が開催する研修会への積極的な参加を促します。
(例 県スポーツ推進委員実技研修会、県スポーツ推進委員研究大会等)
- ・スポーツ選手が最新の技術や知識を学ぶための講演会や講習会等のイベントを、年間1回開催することを目指します。
- ・パートナー企業との連携企画を年間3件以上実施します。
(例 サンクスサポートデー)
- ・市公式ウェブサイト等で奨励金についての情報提供を行い、スポーツ選手の活動を応援します。また、優秀な成績を修めた選手について横断幕の掲示等で広く周知し、市民のスポーツ意識の醸成を図ります。
- ・公共施設にデジタル交流スペースの設置を目指します。

2 スポーツ関連施設等の基盤整備・充実

（1）市内公共スポーツ施設の整備

① 市民が快適にスポーツを楽しむことができる環境の整備を目指します。【生涯学習課】

各スポーツ施設の整備について、利用実態を分析し、様々な年代のあらゆる市民がスポーツに対する興味や関心をもち、多様な競技に親しめるよう、学校再編後の施設の利活用や、指定管理者と連携し関連施設の整備・施設数の最適化を図ります。

② インクルーシブな施設整備を目指します。

インクルーシブなスポーツ環境の整備に向けて、アーバンスポーツの実施が可能な施設の整備を進めるとともに、施設のユニバーサルデザイン化を図り、だれもが使いやすい利用環境の構築を推進します。

●具体目標

- ・老朽化の進む既存スポーツ施設の計画的な整備・改修・長寿命化を実施し、施設利用者の安全を確保します。また、各スポーツ施設の利用実態を分析し、施設数の最適化を図るとともに、指定管理者制度により民間のノウハウを活かし、施設の利便性向上を図り、スポーツ施設の年間利用者延べ35万人を目指します。（令和6年度 312, 652人）
- ・スポーツ施設のユニバーサルデザイン化や、案内表示に順次ピクトグラムを併用するなど分かりやすい案内に努めます。

（2）学校体育施設開放事業の充実

① 学校体育施設開放事業により、既存の施設を有効活用し、広く市民にスポーツに親しむ機会を提供します。【生涯学習課】

学校再編の進捗状況に合わせ、市内小中学校の運動場と体育館を、学校教育に支障のない範囲で、地域の身近なスポーツ施設として開放します。地域スポーツ活動に必要な備品の整備や消耗品の購入、体育館の空調設備の整備等、施設の機能充実を図ります。

●具体目標

- ・学校体育施設の年間利用者延べ12万人以上を目指します。
(令和6年度 89,982人)

（3）屋外スポーツ基盤の整備

①市民が安全で快適にスポーツを楽しめる屋外の基盤整備に努めます。【生涯学習課】

アーバンスポーツを楽しめる場づくりや、サイクリングコース整備やランニング・ウォーキングコース整備等、屋外の基盤整備に努め、健康増進・地域交流・観光資源活用を進めます。

●具体目標

- ・スポーツを通じて人が自然に集まれる場所の創出に努めます。

3 スポーツ団体の育成と部活動の地域展開

（1）地域指導者の育成・確保

- ① 地域スポーツ団体・スポーツ少年団を活用し、指導者の育成・確保を目指します。
【生涯学習課】

JSP0 公認スポーツ指導者資格の取得や「スタートコーチ（ジュニア・ユース）」や「ジュニアリーダースクール」の受講などの支援を通じて、市民スポーツや部活動の指導者の育成及びスポーツ指導者バンクの登録者数の増加を目指します。

（2）地域スポーツ団体の育成

- ① NPO 法人裾野市スポーツ協会や NPO 法人アクティブすその活動について、広報紙や市公式ウェブサイトなどを活用して積極的に情報発信を行い、団体への加盟促進を支援します。【生涯学習課】

NPO 法人裾野市スポーツ協会に加盟することで、施設利用料の割引、スポーツ教室への参加、大会開催時の補助など、さまざまなメリットがあり、これらの活動内容を市の広報紙や公式ウェブサイト等を活用し、積極的な情報発信を行うことで、加盟者の増加を図ります。

（3）部活動の地域展開の円滑な移行及び運営の安定化

- ① NPO 法人アクティブすそのを核とし、学校やスポーツ団体との連携を図りながら、部活動の地域展開を円滑に進め、展開後の地域クラブが安定的に運営される体制づくりを推進します。【生涯学習課】

地域クラブへの部活動展開後も安定した運営が行えるよう、学校体育施設やスポーツ施設の優先利用の確保、指導者の確保などを進め、NPO 法人アクティブすそのを中心とした支援体制の構築を目指します。

② 部活動の地域展開を進めるとともに、NPO 法人裾野市スポーツ協会や NPO 法人アクティブすそのと連携し、市民の生涯スポーツ推進につながる体制の構築を目指します。【生涯学習課】

学校部活動の地域展開に伴い、NPO 法人裾野市スポーツ協会および NPO 法人アクティブすそのが受け皿となる地域クラブの整備を進めるとともに、卒業後も継続してスポーツに親しめる生涯スポーツ環境の構築を図ります。

●具体目標

- ・スポーツ指導者バンクの登録者を増やし、学校やクラブからの依頼に応じて派遣できるよう目指します。
- ・NPO 法人裾野市スポーツ協会への加盟促進を図り、加盟団体数の増加を目指します。
- ・NPO 法人アクティブすそのを中心に令和 9 年夏以降に全ての部活動の休日の地域展開を目指します。

4 スポーツツーリズムの推進

(1) スポーツ合宿の誘致やスポーツイベントの開催

- ① 富士山麓の準高地エリアを活用したスポーツ合宿や大会の誘致に取り組みます。
【産業観光スポーツ課】

(関連計画：S-SP0 スポーツツーリズム推進戦略)

富士山麓の豊かな自然環境、標高の高さ（準高地）、首都圏からのアクセス等の地域資源を生かしたスポーツ合宿の誘致に取り組みます。

なかでも、市内及び近隣のクロスカントリーコース、トラック（競技場）、ロード（道路）を活用し、陸上長距離競技を中心に誘致を行います。

- ② スポーツ合宿の適地を目指し、受入れ体制の整備を図ります。また、静岡県や近隣市町との連携を強化します。【産業観光スポーツ課】

(関連計画：S-SP0 スポーツツーリズム推進戦略)

当市では平成30年3月に、官民連携の地域スポーツコミッショ「裾野市スポーツツーリズム推進協議会（S-SP0）」を設立しました。会員であるトレーニング施設や宿泊施設等との協調により、スポーツ合宿受入れ態勢の整備に取り組みます。

また、静岡県の「スポーツコミッショ「Shizuoka」や、近隣市町で構成する「2市1町スポーツツーリズム推進協議会」との連携を強化します。

- ③ 本市の立地特性を生かしたスポーツイベント等を開催し、スポーツを通じた交流人口の増加を図ります。【産業観光スポーツ課】

(関連計画：S-SP0 スポーツツーリズム推進戦略)

スポーツ愛好家へのアプローチとして、当市の立地特性を生かしたアウトドアスポーツや陸上競技、自転車競技などのイベントを開催し、当市の持つ魅力的なスポーツ資源や観光資源の効果的な発信につなげるとともに、スポーツ合宿閑散期の交流人口拡大を目指します。

●具体目標

- ・令和 12 年度までに、スポーツ合宿受入れチーム数 60 チームを目指します。
(令和 6 年度 40 チーム)
- ・令和 12 年度までに、スポーツイベントの参加者数 5,000 人を目指します。
(令和 6 年度 3,774 人)

(2) 東京 2020 オリンピック自転車競技ロードレースレガシーの継承

① 有形／無形のオリンピック・レガシーを後世に継承します。【産業観光スポーツ課】

オリンピック・レガシーとして整備された「富士裾野ビクトリーロード」を中心としたモニュメント等を保全し、感動の記憶を継承します。

また、市内のバイシクルピットを継続的に供用し、サイクリングコースと併せて PR しサイクリストの誘客を図るとともに、サイクリストからの声を活かしながら受入れ態勢を整備します。

●具体目標

- ・レガシーモニュメント等の保全を行います。
- ・バイシクルピットの供用及び PR を行います。